

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201644		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム あいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟		
所在地	札幌市北区あいの里4条3丁目1-10		
自己評価作成日	平成23年2月28日	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201644&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地の中に建ち、施設の近くには遊歩道や公園があり、自然を身近に感じることができる。 地域住民の方々との交流構築のため、施設内での講習会等、来期開催に向け準備中である。 施設敷地内の家庭菜園で利用者と職員が一緒に畑仕事を行い、時季には収穫した作物で食事が飾られる。 敬老会等の行事に、ご家族に参加いただき、職員や他ご家族との関係つくり而努力している。 法人内外の研修参加の機会を多く持ち、職員の人材育成とサービスの質の向上に努めている。 職員間の情報の共有を基本にチームケアに徹し、利用者のペースに合ったケアの提供に努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟」は、公園や遊歩道などに囲まれた自然環境に恵まれた住宅地に位置している。広々として開放的な共用空間には、大きな窓や天窓などから明るい光が差し込んでいる。各居室には洗面台とトイレが備え付けられており、プライバシーにも配慮した造りになっている。担当課長や管理者の指導の基、職員はチームワークを活かしながら個別対応を行い、利用者が笑顔で過ごせるような温かなケアを行っている。家族からも、職員の明るさと利用者一人ひとりに対する細やかな配慮などに感謝の言葉が多く寄せられている。知人や友人の訪問回数も多く、手紙の交換や美容室の利用など家族の協力の下に馴染みの人や場所との関係継続支援も活発に行われている。今年度は初めて家族アンケートを実施して意見を積極的に吸い上げる取り組みを行い、家族からも率直な意見が寄せられている。また、例年は2ヶ月毎に実施している避難訓練を今年度は一定期間毎月実施したり、職員の救急救命訓練を定期的に行うなど災害対策にも力を入れている。医療面においては内科医と精神科医の2週間毎の往診と歯科医の週2回の往診など、充実した対応で家族にも安心感を与えている。各利用者は職員と楽しく会話を交わしながら、明るい笑顔で穏やかな日々を過ごしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内グループホーム共通の理念を掲げている。ホールや各ユニットに提示し常に心がけとしている。	法人として4項目の施設理念を作成し、「社会的緩和」の項目として地域での生活を実感し、町内会と積極的に交流するという文言を入れている。また、法人としてホーム目標を作成し、施設理念とともに携帯カードにして各職員に配布しているほか、玄関や各ユニットなどにも掲示している。	来年度は職員間で話し合い、「あいの里ふぁみりあ」の事業所独自の目標を作成する意向なので、その取り組みに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、春の花壇整備、お祭りや七夕等の行事に参加しているが、地域住民の方々との交流の機会は少ない。今後、施設内での講習会等の開催を検討中。	七夕祭りに町内の子供達が事業所を訪問してくれたり、地域の夏祭りには昨年初めて参加するなどの交流を図っている。また、散歩時に地域の方々と挨拶を交わしたり、連れているベットの触れさせてもらうなどの交流も行われているが、地域の方が事業所を訪問する機会は少ない。	積極的に地域の行事に参加しながら地域と関わる機会が多くなるように取り組んでいく意向なので、具体的な交流方法などを検討されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者ご家族や地域住民の方々に向け、当施設内にて認知症をテーマにした講習会の開催を検討中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設報告や意見、情報交換を行い、施設サービスの質の向上に生かすよう努めている。	町内会副会長・地域包括支援センター職員などが参加して2ヶ月毎に開催している。家族代表として、毎回1家族の参加を得ている。事業所からの報告、外部評価報告、災害対策などを議題として取り上げ、参加者からは避難時の利用者の移動方法について意見が出されている。	家族に議事録を送付して会議への理解を深めてもらい、参加を呼びかけたり、地域の民生委員などにも呼びかけ、多くの参加者からの意見が日々のケアに更に活かされるように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区のグループホーム管理者会議などに参加しているが、更に市町村担当者との連絡等により協力関係を築くよう努める。	法人の統括施設長が事務手続きで役所を訪問したり、事業所の担当課長が市役所などとメールや電話で連絡を取り、協力関係が築けるように取り組んでいる。市や区のグループホーム管理者会議には必ず出席するようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてのマニュアルをつくり、常時職員が閲覧できる場所に設置している。また会議等で身体拘束廃止について周知している。	身体拘束廃止マニュアルを作成して新入職員には具体的に説明を行っているほか、職員の気になる言葉かけに対してはその都度注意したり会議などで再確認している。また、身体拘束に関する外部研修に参加した職員が会議の際に口頭で報告を行っている。日中は玄関の施錠をせずセンサーを設置して利用者の出入りを把握している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する資料を配布し、指導を行い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会が少なく、諸制度に関しての相談は主に管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時に施設利用についての説明を十分に行い、疑問点は随時確認の上、契約書・重要事項説明書の説明時に最終確認をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時にご意見箱の設置や苦情受付の担当者、苦情解決体制(フローチャート)で説明している。今期、施設独自に、ご家族に向けてアンケートを実施したが、今後も継続していく予定。	昨年の12月に初めての家族アンケートを実施し、家族から率直な意見が多数寄せられている。結果は集計して家族に報告している。来訪時にも要望や意見が言いやすいような雰囲気作りを工夫し、出された意見は会議で報告し、話し合い、改善に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の「報告・連絡・相談」の徹底を心がけている。会議録や連絡帳の活用と、会議や業務中に意見を聞き実行できるように努めている。	毎月ユニット会議を行い、活発な意見交換が行われている。行事や業務の見直しなどについて出された職員の意見は日々のケアに活かすように努めている。担当課長は日々職員と会話を交わしたり状況に応じて個別面談を行い、意見が反映できるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	統括施設長が職員の職務状況や希望等の聞き取りを行っている。その他に1年1回、各職員が、職務内容や異動希望等を記入した「自己申告書」を法人本部に提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修の他、外部研修についても職員の状況に応じた研修に参加できるように努めている。昨年11月より職員のキャリアパスと人材育成を目的に6ヵ月間の有期実習型訓練に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各ユニットごとに人選し外部研修への参加を行い、同業者との交流の機会を持てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問による実態調査等で、ご本人と接する機会をできるだけ持ち、不安軽減につなげるようにしている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や自宅訪問の際に、困っていることや心配なこと、要望などを汲み取るようにしている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの対象にならない相談などについては、特養や老健を紹介したり、他のサービスにつなげている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴を大切にし、得意なことや好きなことで力を発揮できる場面づくりを共に行っている。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会の際に普段の様子をお伝えし、利用者の生活状況をご家族と共有できるように心がけている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会時には記念撮影をしてプレゼントしたり、お部屋でくつろげるように心がけている。	近隣や仕事関係の友人や知人など遠方から訪問してくれる機会が多く、月に10名程訪れてくれる。ハガキや手紙のやり取りや電話での交流のほか、家族の協力の下に美容室やお墓参りに出かけるなど、馴染みの場所との関係継続支援も行われている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく交流できるように、レクリエーション等の場面づくりを心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今期は該当事例がなかったが、退去後の関係性を大切に、相談、支援に努めていきたい。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族からの情報を基に、日々の生活の中で思いを汲み取るように努力している。	利用開始時に生活歴や好みなどの情報を家族から得て課題分析概要用紙に記録し、介護計画の作成に合わせて毎回見直しを行っている。日々の会話や表情、行動などから思いを把握し、分からない時は家族に確認している。	
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りで、生活歴の把握などに努めている。		
25		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や連絡を活用し、日々の変化を把握にできるように努めている。		
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスで検討している。ご家族の意見も反映できるように努めている。	新規利用者の介護計画は家族や医師など関係者から情報を得て作成し、2週間後に本計画を作成している。定期的な見直しは3ヶ月毎にカンファレンスを基に計画作成担当者が立案し、全職員で確認後に家族に説明し、意見があれば修正して作成している。	
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日2回のミーティングを基に情報を共有記録し、計画につなげている。		
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化するニーズを見逃さないようにし、個別性を重視したサービスの提供に努めている。		
29		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時、地域住民の協力体制の確立に努めている。		
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居前に家族、本人に選択していただいている。	協力医療機関の内科医と精神科医は2週間に1度、歯科医は週2回の往診が行われている。従来からのかかりつけ医の受診は家族支援を基本として継続は可能であるが、殆どの利用者は専門医以外は協力医療機関を利用している。かかりつけ医の受診結果は家族を介して情報を把握し、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、毎週決まった看護師が健康管理に訪問し、医療との連携や職員の相談にのってもらえる環境になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護師や医療相談員などと連携し早期退院に努め、入院によるダメージの軽減に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明し、終末期のあり方など話し合っている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成して、利用開始時に家族と本人に説明している。その後は利用者の状況に応じて家族などと方針を話し合い再確認している。緊急時においても職員間で対応を共有して、適切なケアができるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを基に、会議等で確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は主に夜間想定防火訓練を8回実施している。8月には消防署員立会の下、利用者ご家族、地域住民の方々に参加いただき訓練を実施した。更に地域住民との協力体制の確立に努めていきたい。	避難訓練は例年2ヶ月毎に昼夜を想定して実施しているが、今年度は消防署の指導に基づき4月～11月までは毎月訓練を行っている。また、地域住民を含めた連絡網を作成して協力体制を築いている。現在災害備蓄品については検討中である。職員は定期的に救急救命訓練を受講している。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を損なわないような対応を心がけているが、誤解を招く声掛けもあり、接遇に関する指導等に努めている。	言葉遣いに気を付けることを事業所の重要課題として取り上げている。利用者の人格を尊重し、呼びかけは「名字」か「名前」に「さん」付けを基本としている。個人ファイルは鍵付きの書庫で安全に管理し、日報などを記録中に離席する際はファイルを伏せるなど注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	言葉やしぐさ、表情の変化等に気づき、利用者の思いを汲み取れるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大事にと心がけているが、入浴など決められた時間や日に対応せざるを得ないものもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの地域の理容店に定期的に行ける機会を作ったり、女性の場合はお化粧を勧めたり髪を染めたり等、利用者の要望に沿えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせ、食事の下ごしらえ、食器拭き等を一緒に行なっている。誕生日には好きな物を取り入れ、個々の嗜好や味付けに配慮し、楽しく食べて頂けるようにしている。	利用者は体調や身体能力に応じて食器洗いなどを手伝っている。献立は法人が契約している食材会社から1週間ずつ送られてくるが、菜園で採れる季節の野菜を加えるなど変化を付けている。食事中は職員が編集したDVDの音楽と画像が流れ、職員も利用者と同じものを会話しながらか楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部に献立と食材を発注している。食事量と水分量は「生活アセスメントシート記録」に記載し把握している。主治医に相談しながら栄養バランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い清潔に努め、義歯や口腔内の状況を確認している。週2回の訪問歯科に相談し、口腔内の状況を報告し、口腔ケアの指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援を心がけオムツの使用は極力減らし、トイレで排泄が出来るようにしている。入居者の排泄パターンに合わせ、定時声かけと誘導を行っている。	「生活(暮らし)アセスメントシート」を基に、トイレへの声かけを行っている。声かけの際は耳元で小さな声で呼びかけたり、「向こうにいきましょうか」など周囲に悟られないよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のため落ち着かない行動をとる利用者もいるため、水分量の確認、便通の良い飲み物や食事に配慮している。歩行運動等の運動の機会を多く持つようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は夜間を除き、曜日・時間に関係なく、いつでも入浴が出来る体制になっており、体調に合わせて最低週2回の入浴を支援している。	毎日午前10時半から午後3時位までの時間帯にいつでも入浴が可能で、平均週2回入浴している。入浴拒否がある場合には時間をずらすなどタイミングを図って入浴してもらっている。入浴剤も工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に配慮し、個々の状況に合わせてソファやベッドで休息がとれるように、声かけをし、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬のリストを、常時確認ができるようにファイルし、職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の要望に合わせ、裁縫・カラオケ・楽器の演奏など楽しまれている。敬老会や誕生会の時には、楽器の演奏を発表する機会を支援している。畑仕事やテラスでのバーベキューや法人の合同行事に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近隣の公園や遊歩道へ散歩している。2ヶ月～3ヶ月に一度程、外出レク(花見・お食事会・買い物等)で外出している。車でのドライブや買い物へ家族と外出されている。	気候の良い時期には公園や遊歩道を毎日でも散歩できるが、冬期の外出機会は少ない。また、外出行事はあるが、年間行事予定は特に作成していない。	年間行事予定を作成し、利用者や家族が事前に把握できるような取り組みに期待したい。また、冬場の外出機会を増やすよう検討されることを期待したい。
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な利用者については、財布の中身が紛失しないよう最善の注意をしている。外出レク等では、希望の品物を選び購入できるようにしている。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも利用者と大切な方が連絡をとれるように、対応している。書いた手紙については、利用者と一緒に近隣の郵便ポストへ投函している。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、平屋建てのため広々と開放的である。共同ホール・廊下・リビングの壁には、季節感を取り入れた装飾や写真を貼り、居心地の良い空間作りを心がけている。	共用空間は天井が高く、広々として開放的であり、天窓からの採光や広い窓からも光が十分あり、明るく清潔である。廊下や居間の壁には利用者の生活シーンや行事の写真が沢山飾られ、楽しくほほえましい雰囲気である。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の所々にソファを置き、窓に面した場所には椅子とテーブルを置いている。そこで利用者同士が、会話や作品作りを楽しめるようにしている。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅生活をしていた時に使用していたタンス、テレビ、椅子等を居室に置き、住み慣れた環境の中で、安心した生活が送れるように、配慮している。	各居室は広いスペースで、室内にトイレと洗面台があり、ベッド、ロッカーも備え付けられている。利用者はそれぞれが馴染みのものやお気に入りのものを持ち込み、個性的で居心地よい空間となっている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の個々の状態を把握し、事故が起きて大きな怪我をしないように、手すりや安全バーの設置、ベッドの高さ、滑り止めテープの使用等工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201644		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム あいの里ふみりあ1号棟・2号棟		
所在地	札幌市北区あいの里4条3丁目1-10		
自己評価作成日	平成23年2月28日	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201644&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1号棟ユニット」に同じ

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内グループホーム共通の理念を掲げている。ホールや各ユニットに提示し常に心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり、廃品回収への協力を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者ご家族や地域住民の方々に向け、当施設内にて認知症をテーマにした講習会の開催を検討中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設報告や意見、情報交換を行い、施設サービスの質の向上に生かすよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区のグループホーム管理者会議などに参加しているが、更に市町村担当者和との連絡等により協力関係を築くよう努める。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてのマニュアルをつくり、常時職員が閲覧できる場所に設置している。また会議等で身体拘束廃止について周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する資料を配布し、指導を行い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会が少なく、諸制度に関しての相談は主に管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時に施設利用についての説明を十分に行い、疑問点は随時確認の上、契約書・重要事項説明書の説明時に最終確認をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や契約時、苦情受付の担当者、苦情解決体制(フローチャート)で説明している。利用者やご家族が意見要望を直接職員に伝えられるような環境を心がけている。今期、施設独自に、ご家族に向けてアンケートを実施したが、今後も継続していく予定。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の「報告・連絡・相談」の徹底を心がけている。会議録や連絡帳の活用と、会議や業務中に意見を聞き実行できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	統括施設長が職員の職務状況や希望等の聞き取りを行っている。その他に1年1回、各職員が、職務内容や異動希望等を記入した「自己申告書」を法人本部に提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修の他、外部研修についても職員の状況に応じた研修に参加できるように努めている。昨年11月より職員のキャリアパスと人材育成を目的に6ヵ月間の有期実習型訓練に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各ユニットごとに人選し外部研修への参加を行い、同業者との交流の機会を持てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問で、利用者ご家族と接する機会をできるだけ持ち、不安軽減に努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や自宅訪問の際に、困りごとや心配ごとを伺い、受容に努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの対象にならない相談などについては、特養や老健を紹介したり、他のサービスにつなげている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴を大切にし、得意なことや好きなことで力を発揮できる場面づくりを共に行っている。		
19		○ 本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会の際に普段の様子をお伝えし、利用者の生活状況をご家族と共有できるように心がけている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会時には記念撮影をしてプレゼントしたり、お部屋でくつろげるように心がけている。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者個々の性格等の把握に努め、利用者同士が友好的に交流できるように、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動した利用者の経過を確認し、必要に応じて相談、支援に努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族からの情報を基に、日々の生活の中で思いを汲み取るように努力している。		
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りで、生活歴の把握などに努めている。		
25		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や連絡を活用し、日々の変化を把握できるように努めている。		
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスで検討している。ご家族の意見も反映できるように努めている。		
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日2回のミーティングを基に情報を共有記録し、計画につなげている。		
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化するニーズを見逃さないようにし、個性を重視したサービスの提供に努めている。		
29		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時、地域住民の協力体制の確立に努めている。		
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居前に家族、本人に選択していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、毎週決まった看護師が健康管理に訪問し、医療との連携や職員の相談にのってもらえる環境になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護師や医療相談員などと連携し早期退院に努め、入院によるダメージの軽減に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明し、終末期のあり方など話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを基に、会議等で確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は主に夜間想定防火訓練を8回実施している。8月には消防署員立会の下、利用者ご家族、地域住民の方々に参加いただき訓練を実施した。更に地域住民との協力体制の確立に努めていきたい。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を損なわないような対応を心がけているが、誤解を招く声掛けもあり、接遇に関する指導等に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉やしぐさ、表情の変化等に気付き、利用者の思いを汲み取れるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大事にと心がけているが、入浴など決められた時間や日に対応せざるを得ないものもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みの色や柄の把握や、男性は髭剃りの促し、女性の場合は髪飾りやお化粧を勧めたり、希望に添って髪を染めたりパーマをかけたり等、利用者の要望に沿えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや後片付けのお手伝いして頂き、共に食事を摂り、好みの食事量、硬さ、彩りを把握するなどしている。夏には利用者と収穫した野菜が食卓を飾ります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者にメニュー作りを委託し栄養バランスを確保している。水分、食事量を記録し、一人ひとりに合った食事が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前等に声かけ、見守り、介助等、利用者個々に合った支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を記録、アセスメントし、トイレで排泄できるよう、排泄サインの見極めや、定期的な声かけ誘導等で支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を基本に、水分、油分、乳飲料などに配慮している。また排便状況や排ガスを記録、確認している。医師との連携により下剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は日中に限られているが、利用者の希望に添って楽しんで頂いている。入浴拒否がある方には全身清拭、ドライシャンプー、足浴で清潔を保持している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いの休息がとれるような環境作りに取り組んでいる。また利用者の希望に添い、一人ひとりの就寝、起床時間を大切に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬リストや、薬錠確認リストを作成し周知している。服薬後の心身、バイタルの観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ、豆より等のお手伝いや、パズルや塗り絵、体操等の趣味活動を行っている。季節ごとの行事に参加頂き楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者からの希望時や職員の声掛けで、近所の公園を散歩したり、畑の野菜収穫をお手伝い頂いている。行事では季節を感じる景色を楽しんで頂けるよう取り組んでいる。		
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望される場合は、ご家族との相談のもと自己管理できるよう支援している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重し電話の取次ぎや、郵便物投函の支援を行っている。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るく広々とした開放的な環境を作っている。柔らかな光の照明や、景色を望める大きな窓を設け四季を堪能して頂いている。また、壁には利用者の写真の掲示や季節の装飾を施し心地良い空間づくりに努めている。		
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数脚のソファの点在や、集合できる食卓、映画やビデオを鑑賞できる設備など思い思いの時間を過ごせる環境作りに努めている。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れた家具を配置したり、好みの装飾等で自宅での生活を意識した環境作りに取り組んでいる。		
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前にネームプレートを設置し自室が分かるよう配慮し、要所に手摺を設置し自立動作の促進を行っている。また、自身で選択できるような衣服の収納や整理に努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟

作成日：平成 23年 3月 28日

市町村受理日：平成 23年 4月 8日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	49	年間行事予定を作成していない。冬期間の外出が少ない。	年間行事予定を作成する。冬期間の外出の機会を増やす。	冬期間の外出行事を企画する。年間行事予定を作成し、利用者様、ご家族に配布する。	1ヶ月
2	1	ふぁみりあ全体の「施設理念」と「ホーム目標」は作成されているが、あいの里ふぁみりあ独自の理念目標は作成していない。	「あいの里ふぁみりあ」事業所独自の目標を作成する。	職員間で協議の上、より具体的な目標を設定し、サービスの質の向上に繋げる。	1年
3	2	地域住民の方々が、施設を訪問する機会が少ない。	地域との交流の機会を増やす。	地域住民の方々が気軽に参加いただけるような、講習会等を施設内で開催する。	1年
4	4	運営推進会議の家族参加が少ない。	ご家族の参加者数を増やす。	ご家族や地域の民生委員などに参加を呼びかける。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。